

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2193100167		
法人名	社会福祉法人 錦江舎		
事業所名	グループホーム 夢眠かに		
所在地	可児市今渡1619-137		
自己評価作成日	令和元年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2193100167-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2193100167-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和元年11月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

行事やレク活動にボランティアの方に参加していただき交流を持つことで、随時外部の方と接する機会を設け社会性の維持に配慮しています。地域の方との交流を大切に、外出の機会を多く設け利用者の方が生き生きと和やかな生活ができるように支援しています。また、日常の生活リズムを大切にしながら四季を感じてもらえる工夫をしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム開設2年目であるが、開設時に全職員による「決起集会」を行ったことで意思統一が出来ており、職員のチームワークも良い。ホーム理念の「尊重、尊厳、尊信」に忠実な支援を実践しようと、職員の意識は高い。そのような職員の支援を受けながら、利用者は自ら箸やモップを持って、居室や共用部分を声掛け合いながら清掃をしている。開設から時間の経過が短いにも関わらず、地域のボランティアの受け入れが盛んに行なわれている。ホームのリビングで、ハーモニカやピアノの演奏会が行われている。保育園児と一緒に子犬とのアニマルセラピーやクリスマスのポップ作りを楽しみ、園児による歌や遊戯の披露などがある。近所の小学生との交流もあり、近所の篤志家はホーム庭の花壇作りに来所している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰かに聞かれても説明できるようにスタッフ全員で理念を意識し、毎月の会議に理念の確認を行い共有しております。	施設概要(パンフレット)にホーム理念「尊重、尊厳、尊信」を掲げ、その意図せんとする意味・解釈も併記して掲載している。毎月の会議資料にも定型化して載せ、全職員への浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の方のボランティア訪問や、野菜、果物等の差し入れや、夏祭り、近隣の保育園との交流会等で地域住民との交流に積極的に取り組んでいます。	開設して2年目でありながら、ボランティアの来訪が多く、地域との繋がりに力を注いでいる。ハーモニカやピアノの演奏のボランティア、保育園児とのアニマルセラピー、夏祭りの小・中学生との交流など多彩である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや、近隣の方、また会議にて地域の方に理解を深めていただけできるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活や状況、取り組み等の詳しい内容を報告し、意見や助言をいただきサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、出席者及び開催回数ともに適切な運営である。ホームからの運営状況の報告の後、参加メンバーによる質疑応答や意見交換を行っている。	より多くの利用者・家族の出席を促し、意見聴取の機会とすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連絡を取り、相談、助言を受け、関係を築いている。	運営推進会議に市・職員の出席があり、行政はホームの状況を把握し、相互の連携は取れている。さらに、市主導のグループホームネットワーク会議に参加し、連携を深めている。介護相談員の定期訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、研修した内容を職員間で注意しあっている。また何気ない言葉で利用者様気がつくこともあり、利用者様の気持ちに寄り添う必要がある。	身体拘束委員会は、併設の特別養護老人ホームと合同で開催している。スピーチロックへの対策として、職員の発した事実に意見を交えた振り返りを行い、相互研鑽をしている。職員は関連する研修に積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で勉強会を行い毎月1人1枚ずつヒヤリハットを記入し、出勤時はヒヤリハットを読みスタッフ全員で情報を共有し虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体での勉強会と回覧研修でも勉強を行い学ぶ機会をもっております。ご家族に聞かれてすぐ話せるように資料を用意しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様にご不明な点はないか確認して納得していただき契約している。また利用後起こりうるリスクに関してなど説明し、ご家族の理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や電話やメールで状況報告を行い意向を確認し介護計画や施設の体制に取り入れております。利用者様の要望に応じれるようにご家族の方にも協力を得てサービスの向上に反映させております。	家族が頻繁に面会に来訪し、その機会に意見を聴いている。初期の介護計画の目標には「面会・来訪」を入れており、家族の意見や要望を聞き取ろうとするホームの強い意思が感じられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い、職員からの意見や提案を聞き、業務に反映している。また会議以外でも話しをして意見が言いやすい環境を作っている。	定例会議の他に、施設長による個別面談、管理者による随時の聞き取りによって、職員意見が吸い上げられている。職員の意見から、勤務時間や記録用紙、備品の配置場所等の変更が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいようにアットホームな雰囲気笑顔で絶やさない職場作りに努めています。介護福祉士等の資格、また日々の努力や実績に応じて正職員への起用に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の状況に応じて研修への参加を促したり、資格取得の為にサポートをしている。勉強会を行い参加できなかった職員にも回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホームとの交流を行い情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の初期のアセスメントを行い要望を聞き出せるようにし、利用者様主体でケアプランに取り入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期アセスメントを行いご家族様の意向を伺い利用者様と話し合い要望等を取り入れるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にグループホームでの支援が必要か資料と面談に伺い確認し、相談員と話し合いながら対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち利用者様の本意を大切にし残存能力に配慮した対応を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	週に1回の面会をケアプランに取り入れ利用者様との関係の継続を断ち切らないようにしております。利用者や家族が不安なく生活できるようスタッフが取りついで対応しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との馴染みの場所への外出や面会をお願いしております。スタッフによる馴染みの場所へのドライブや会話を楽しんで頂き積極的に取り組んでおります。	利用者の最大の馴染みは、家族や知人・友人であり、その関係継続を支援をしている。その一環として、かつて住んでいた住居周辺へのドライブを行っている。兄妹に会いた願望には、家族の協力で叶えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の個性や性格をスタッフが理解し、座る位置や対応に配慮し皆で楽しんで共同生活が送れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には看護、介護サマリー等お渡しし、ホームでの生活が継続できるように働きかけております。退所されてから様子を伺いに行っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いなど傾聴し把握し職員に共有し職員に共有しどのように対応していくか意見を話し合うようにしている。	日々の会話の中から、利用者の思いを汲み取る努力をしている。入浴時や外出支援の時は利用者1対1になるので、思いの聴取には良い機会と捉えている。家族からも、貴重な情報も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	シートを使用しスタッフが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りなどで把握するように努めているが、記録が少なかったり申し送りがうまくできていないのが今後の課題である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で出来ること、出来ないことやそれぞれの利用者様の現状を知り課題となることを話し合っ計画を作成している。	モニタリングは不定期であるが、サービス内容を介護記録として毎日取っている。介護計画の作成は思いや意向の反映に努め、1年毎に又は状態に変化が生じた時に見直しを行っている。	定期的(1年毎)、状態変化時の見直しに加え、利用者の意向の変化にも着目して介護計画の見直しを実施することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入しているが利用者様の様子が読み取れる程細かくはされていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時の体調や心の状態をみながら柔軟に対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時に地域資源を確認しておりますが、なかなか多様な地域資源を活用させることが難しいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し緊急時は希望の病院に搬送して頂けるように看護に伝え情報共有しております。医療行為が必要な場合は看護と相談し対応させて頂いております。	協力医療機関の往診が毎月2回ある。訪問歯科の往診もある。普段は、併設の特別養護老人ホームの看護師が毎日来訪し、利用者の健康管理にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定の結果を看護に伝え、必要時は看護職に再測定して頂いております。日々の気づきを大切に、変化が見られた時は直ぐに看護に報告・相談して主治医に連絡する体制を築いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護・介護サマリーを医療機関に渡し情報共有し、入院中もご家族様に容態を伺ったり、面会に伺わせていただいております。早期退院できるように医療関係者・ご家族様と連携をとって支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時にご家族の意向を確認しております。状況に応じ、その都度ご家族様の意向を確認し看護職に情報共有しております。医療行為が必要な場合看護職と相談し対応しております。	重度化した場合は、家族の意向を尊重した対処となるが、今は併設の特別養護老人ホームへ移行することが善処と考えている。ホームでの看取りは今後の課題として認識しており、職員は知識と技術の研鑽に励んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しスタッフで情報共有しております。救急隊員による急変時の対応方法・AEDの使い方の研修を受けて習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の非常口を全てスタッフが周知し、年に2回避難誘導を行っております。備蓄品を用意しローリングストック法を活用しています。	防災(避難)訓練は年間2回行っており、1回は消防署が指導に来ている。飲食料の備蓄は事務室で保管し、ローリングストックで期限管理をしている。停電対策の照明機器類も備えている。	夜間の災害発生では、地域住民の協力が不可欠となる。防災訓練に地域住民の参加を要請し、まずは夜間想定訓練の見学の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応しております。丁寧な言葉かけを心掛けています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、呼称は利用者本人及び家族の了解を得た呼び名としている。また、ホームでの家事手伝いは役割を赤らかにして、かつ本人の同意を得てから行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日服装、何を飲みたいか等利用者様の意志を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先されている。極力利用者の方の希望に添う様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整髪、整容の声掛け見守り介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずを配食しているので同じような色になっている。盛り付け、食器拭きは一緒にやって頂けるよう心掛けています。もっと楽しいものになるよう支援が必要。	副食は宅配業者を利用しているが、主食と汁物はホームで調理した温かいものを提供している。キザミ食にも対応している。誕生会には、スポンジケーキに手作りトッピングで飾り付けをして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすくするために1人1人形態を考えた支援はできています。水分量の少ない方への支援をもっと考えなくてははいけない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後毎回声掛けをさせて頂いております。本人の力に応じたケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、1人1人に合わせた支援を行っております。トイレにて排泄できるように声掛け誘導を行っております。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェックリストの記録から、時間帯を定めてトイレへ誘導している。誘導の声掛けは、「手を洗いましょう」等、状況に応じて工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し自然排便を促せるように食べ物を工夫しトイレ誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合上、曜日や時間帯の希望には対応できていない。入浴中は自分のペースでゆっくり入っていただけるよう介助している。	入浴の時間帯は午前中で、週3回を目標に支援している。入浴中は、浴槽の構造を考慮して浴室で見守りしている。入浴剤を使用したり、声掛けの工夫をして、快く入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節やパジャマへの更衣など就寝環境を整えている。起床時間は個々に合わせて対応。日中の休憩もその時の状況によって対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の症状の変化、薬の変更、服薬前の氏名確認、声掛けなど常にスタッフ間で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活リズムに合わせて休んで頂いたり、体操、好きなことをやって頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様それぞれの状態に応じて、散歩、ドライブなど楽しんでいただく機会をつくるように心がけている。	職員配置の都合が付けば、職員と一緒に散歩をしたり、近所のドラッグストアへ日用品の買い物に出掛けたりしている。季節ごとに、花見や紅葉を求めて景勝地へドライブをすることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の方が理解してみえるから安心して下さい。お支払いは口座落として心配ないとお話納得して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室で携帯でお話をされている方もみえます。手紙はタンスの上に置きいつでもみえるようにして、「手紙がありますね」「いいですね」等の声掛けをしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は自分の席を認知しておられ席(自分)に座られると安心してみえます。小鉢への盛り付けをされると達成感を感じられ笑顔がみられます。	壁飾りは担当職員を決めて、3ヶ月を目安に貼り替えている。調査当日は、決して華美ではないが、雪だるまを題材にした壁飾りとクリスマスの壁飾りが映えていた。昼食後に掃除タイムが設定されており、女性利用者の働く姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の空間は、確保されておりいつでもやすらぎのあるスペースである。またご近所のような付き合いもできるほどよい距離感である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある小物や写真、机等触れながら安心して暮らしていただく。プライバシーは守っている。	居室には、ベッド、クローゼット、中・小のチェスト、エアコンが備え付けてある。利用者は馴染みの物を持ち込み、壁にはピン止めで写真などを飾りつけている。清潔で整理整頓の行き届いた居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の状態に見合った活動や自立を促し、安全に過ごせるよう環境の整備はできている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100167		
法人名	社会福祉法人 錦江舎		
事業所名	グループホーム 夢眠かに		
所在地	可児市今渡1619-137		
自己評価作成日	令和元年11月 5日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193100167-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2193100167-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和元年11月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事やレク活動にボランティアの方に参加していただき交流を持つことで、随時外部の方と接する機会を設け社会性の維持に配慮しています。地域の方との交流を大切に、外出の機会を多く設け利用者の方が生き生きと和やかな生活ができるように支援しています。また、日常の生活リズムを大切にしながら四季を感じてもらえる工夫をしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰かに聞かれても説明できるようにスタッフ全員で理念を意識し、毎月の会議に理念の確認を行い共有しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティア訪問や、野菜、果物等の差し入れや、夏祭り、近隣の保育園との交流会等で地域住民との交流に積極的に取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや、近隣の方、また会議にて地域の方に理解を深めていただけできるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活や状況、取り組み等の詳しい内容を報告し、意見や助言をいただきサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連絡を取り、相談、助言を受け、関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、研修した内容を職員間で注意しあっている。また何気ない言葉で利用者様が気づくこともあり、利用者様の気持ちに寄り添う必要がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で勉強会を行い毎月1人1枚ずつヒヤリハットを記入し、出勤時はヒヤリハットを読みスタッフ全員で情報を共有し虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体での勉強会と回覧研修でも勉強を行い学ぶ機会をもっております。ご家族に聞かれてすぐ話せるように資料を用意しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様にご不明な点はないか確認して納得していただき契約している。また利用後起こりうるリスクに関してなど説明し、ご家族の理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や電話やメールで状況報告を行い意向を確認し介護計画や施設の体制に取り入れております。利用者様の要望に応じれるようにご家族の方にも協力を得てサービスの向上に反映させております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い、職員からの意見や提案を聞き、業務に反映している。また会議以外でも話しをして意見が言いやすい環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいようにアットホームな雰囲気笑顔で笑顔を絶やさない職場作りに努めています。介護福祉士等の資格、また日々の努力や実績に応じて正職員への起用に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の状況に応じて研修への参加を促したり、資格取得の為にサポートをしている。勉強会を行い参加できなかった職員にも回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設のグループホームとの交流を行い情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の初期のアセスメントを行い要望を聞き出せるようにし、利用者様主体でケアプランに取り入れております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期アセスメントを行いご家族様の意向を伺い利用者様と話し合い要望等を取り入れるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にグループホームでの支援が必要か資料と面談に伺い確認し、相談員と話し合いながら対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持ち利用者様の本意を大切にし残存能力に配慮した対応を心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	週に1回の面会をケアプランに取り入れ利用者様との関係の継続を断ち切らないようにしております。利用者や家族が不安なく生活できるようスタッフが取りついで対応しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との馴染みの場所への外出や面会をお願いしております。スタッフによる馴染みの場所へのドライブや会話を楽しんで頂き積極的に取り組んでおります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の個性や性格をスタッフが理解し、座る位置や対応に配慮し皆で楽しんで共同生活が送れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には看護、介護サマリー等お渡しし、ホームでの生活が継続できるように働きかけております。退所されてから様子を伺いに行っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いなど傾聴し把握し職員に共有し職員に共有しどのように対応していくか意見を出し合うようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	シートを使用しスタッフが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りなどで把握するように努めているが、記録が少なかったり申し送りがうまくできていないのが今後の課題である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で出来ること、出来ていないことやそれぞれの利用者様の現状を知り課題となることを話し合っって計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入しているが利用者様の様子が読み取れる程細かくはされていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時の体調や心の状態をみながら柔軟に対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時に地域資源を確認しておりますが、なかなか多様な地域資源を活用させることが難しいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し緊急時は希望の病院に搬送して頂けるように看護に伝え情報共有しております。医療行為が必要な場合は看護と相談し対応させて頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定の結果を看護に伝え、必要時は看護職に再測定して頂いております。日々の気づきを大切に、変化が見られた時は直ぐに看護に報告・相談して主治医に連絡する体制を築いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護・介護サマリーを医療機関に渡し情報共有し、入院中もご家族様に容態を伺ったり、面会に伺わせていただいております。早期退院できるように医療関係者・ご家族様と連携をとって支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時にご家族の意向を確認しております。状況に応じ、その都度ご家族様の意向を確認し看護職に情報共有しております。医療行為が必要な場合看護職と相談し対応しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しスタッフで情報共有しております。救急隊員による急変時の対応方法・AEDの使い方の研修を受けて習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の非常口を全てスタッフが周知し、年に2回避難誘導を行っております。備蓄品を用意しローリングストック法を活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が利用者様のプライバシーに配慮し、尊敬の気持ちを持って言葉かけなどを心掛けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのちょっとした会話の中で思いや希望を読み取りさりげなく自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者様の行動などを観察しながら、1人1人に合った日常生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望によりお気に入りの美容院に行かれたり、お化粧される方にはお手伝いをさせていただいたり、その方のこだわりを大切に思い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食の盛り付け、食器拭き等をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	噛む力が足りない方には、一口大、きざみ、極キザミ等にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、付き添い声かけが必要な時はそのようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、その方のパターンに応じて声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を1日1回確認。便秘傾向の方には水分を多めに摂っていただく。牛乳等も提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴＝面倒という考えの方もみえる為、その時々声掛けを気にかけて行い、その方々に合ったタイミングで入浴へ誘導している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠の強い方には少しでも居室で休んでいただくよう対応。居室で過ごしたい方には、ゆっくり過ごしていただくように声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて内容を把握し、服薬時にも、職員2名でダブルチェックを行う。バイタル異常時や日常の変化は看護師に報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人個々の能力に応じた役割(食事の準備)を職員と一緒にやっている。また、楽しめるような支援を常に行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外へ気軽に行けるように支援している。家族との時間を共有できるよう協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近に行く機会はなくなりましたが、買い物に行く際、なるべく自分が動くのでは、利用者様に買い物の確認や物の値段比較、カートをおしていただくなど、お金の確認など手伝っていただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などはまだやりとりはないのですが、いつも時間があるときはプリントなど名前や計算等をしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共用空間になるよう皆様でいつも全員で協力して掃除をしていただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者様、話しのできる方との席に留意している。フロアにはソファもあり1人でゆっくりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみのイス、ぬいぐるみ、壁画等、居室に置いてあります。イスに座られたり、ぬいぐるみに話しかけてみえます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人無理のないよう、掃除や洗濯たみ等声掛け見守り行っています。		